



## 森松明希子さん講演会「福島原発事故と私たちの人権」

(戸村京子)

2018年10月27日にブラザー・ミュージアム(名古屋市)にて、福島原発事故避難者の森松明希子さん(東日本大震災避難者の会 Thanks & Dream <サンドリ>代表)の講演会を開催しました。福島県郡山市から、2人のお子さんを抱えて大阪市へ母子避難されている森松さん。そのつらい避難生活の体験を基に、今年3月に国連人権理事会で、福島原発事故の被災者の置かれている状況、日本の放射能被ばく限度「20ミリシーベルト/年」を事故前の「1ミリシーベルト/年」に戻すこと、被災者の「避難する権利」を認めてほしいと訴えたこと、国連やドイツ訪問等の様子を、東京の避難者草野さんとお二人で報告してくださいました。

チェルノブイリ救援・中部は1992年に、ウクライナのカウンターパート「放射能汚染地域から非汚染地域への移住基金」(現「チェルノブイリの人質たち」基金)と共に、国連「世界人権宣言」にチェルノブイリや世界中の核被害者を“放射能難民”と認定することを求め、『放射能の危険にさらされずに生きる人間の権利・ウクライナと日本の市民団体の共同覚書』を提出して訴えました。ウクライナのジトーミルスキー・ヴィースニク新聞社やアメリカのNGOと連携して取り組んだものです。

今回の講演会は、チェルノブイリ救援・中部、名古屋YWCA、レスキューストックヤード、未来につなげる・東海ネット、核のゴミキャンペーン、原発事故避難者の会・愛知の6団体が実行委員会を結成し主催しました。当日は、避難者の会の若いお母さんたちが司会進行を担い、集団訴訟の原告として闘っている避難者は、被災者の人権や思いを述べ、裁判の傍聴を要請しました。東海地域で原発や核廃棄物の危険性を長く訴え続けてきた市民と避難者支援のNPO・NGOメンバーは、彼らの問題は日本社会の問題、自分への課題との思いを新たにしました。



〒460-0012 名古屋市中区千代田5丁目11-33 STブラザ鶴舞5階B

**NPO 法人 チェルノブイリ救援・中部**

銀行名：三菱UFJ銀行 高畑支店(店番号297)

口座番号：普通 1682863

口座名義：特定非営利活動法人 チェルノブイリ救援・中部 理事長 原 富男

郵便振替：00880-7-108610

TEL / Fax：052-228-6813 (月・水・金 10:00 ~ 17:00)

ホームページ：<http://www.chernobyl-chubu-jp.org>

## 脆弱な子ども達を、被曝から守ることに力を貸してください。

去る 2018 年 3 月 19 日、森松明希子さん (P1 参照) は、スイス (ジュネーブ) で開かれた国連人権理事会本会合で、スピーチを行いました。このスピーチは、NGO グリーンピース・ジャパンの尽力により実現しました。その要約を紹介します。

『…避難者である母親たちと、グリーンピースとともに来ています。私は、2011 年 5 月、福島の大災害から逃れるために、二人の子どもを連れて避難しました。原発事故後、放射能汚染は広がりました。

私たちには情報は知らされず、無用な被

曝を重ねました。

空気・水・土壌がひどく汚染される中、私は汚染した水を飲むしかなく、赤ん坊に母乳を与えてしまいました。

放射能から逃れ、健康を享受することは基本的原則です。日本の憲法は『全世界の国民が、等しく恐怖と欠乏から免れ、平和のうちに生存する権利』と描かれています。

しかし、日本政府は市民を守るための政策を、ほとんど実施してきませんでした。その上、日本政府は放射線量の高い地域への帰還政策にばかり力を注いでいます。

日本政府は、国連人権理事会での勧告を直ちに完全に受け入れ、実施をしてください。国連加盟国の皆さんの、日本人の権利擁護の働きに感謝します。

今後も、福島そして東日本の…特に、脆弱な子ども達を、さらなる被曝から守ることに力を貸してください。ありがとうございました。』



<東日本大震災による「原発事故被災者支援関西弁護団」の HP より借用しました>

### 【緊急】チェルノブイリ救援・中部 理事一同から、寄付の緊急依頼！

当団体は、みなさまからの寄付金と助成金で、1990 年から 28 年間活動を継続してこれことができました。本当にありがとうございます。今年度も、なんとか、ギリギリの資金状態で終わられる見込みです。

ただし、今年度は当初予算の段階で、「ウクライナへの支援金と業務委託費の減額 (前年度よりも約 95 万円の減額)」をしています。さらには、下半期に予定していた「ウクライナへの派遣事業の中止 (85 万円)」や「手紙プロジェクトの減額 (20 万円)」(全体で約 200 万円の事業費の減額)をすることで、運営資金ギリギリで今年度を終える予定です (残金 0 円)。これらの措置で運営資金が間に合わない場合には、さらに管理費 (おもに人件費) の削減も考えています。

原発事故の影響は、残念ながら長く続きます。ウクライナも、福島も、まだまだい

ろいろな形での支援が必要と考えています。できることならば、今しばらく当団体の活動を継続して、ウクライナと福島の支援をしていきたいと願っています。また、福島で継続的に実施してきている「放射線量の測定および汚染マップ作成プロジェクト」により、最も大切と思われる現状把握を続けていきたいと考えています (土壌の放射線量測定は今年度から正式に始めさせていただきました)。

いつもお願いばかりで大変恐縮ですが、みなさまからの支援をたよりに、活動をしています。いただきました支援金 (寄付金、助成金) は、ウクライナや福島のために大切にに使わせていただきます。この窮地を助けていただきたく、どうぞよろしくお願ひいたします。

理事一同

## 南相馬便り

(神野 英樹)

### ★ 信田沢搾油所で生産した「油菜ちゃん」、

#### LUSH 社に初出荷！

- 信田沢搾油所のフル稼働体制が整った。地元で協働する「NPO 法人 えこえね」からは、今年定年を迎え協力を快諾して下さった熟練の T さん (65 才)、地元の農業高校卒で U ターンを決断した A 君 (28 才)、遥か鳥取県からは、移住覚悟でフクシマに寄り添いたいという M さん (35 才) ... の 3 名体制。
- 折しも、LUSH 社への納入対応でフル生産となったこの時期に、またとない陣容である。A 君・M さんには、「農作業全般」そして「菜の花 PJ」の若い担い手になっていただくべく、研修制度も計画している。
- 先日 (11 月 26 日)、LUSH 社への「初出荷」が、計画通りスタートした。



### ★「秋の測定隊」完遂！

- 10/13~14 (第 32 次) & 10/20~21 (第 33 次) の 4 日間に、第 16 期目となる「秋の測定隊」が計画通り実施された。
- 改善点 (その 1) ... 県外からの応募者は「現地 (とどけ鳥) 集合/現地解散」！  
本当に予定通り「全員集合」していただけるかどうか、応募者全員の顔を見るまで、不安でいっぱいだったが、遠方からの参加者も、見事定刻通り参集。測定隊員の募集を、幅広く弾力的に行える道が開けた。
- 改善点 (その 2) ... 土壌の採取方法を「マニュアル化」して統一！  
スコップ・ホールカッター・くわ...などを完備し、採取すべき土壌や採取方法などを「マニュアル化」したことにより、サンプル採取にバラツキが少なくなった。また、改めて、防護服・防塵マスク・靴カバーも完備。
- 改善点 (その 3) ... 測定用の案内地図を改良！  
測定隊の強力な助っ人 (私たちが全面的に信頼する) S さんが、各測定エリアごとに、すべての測定ポイントを 1~2 枚の地図に落とし込んだ「改良マップ」を作成してくれた。道に迷う

こともなく、大幅に測定ポイントを探す時間が短縮された。

### ★ ある農牧業従事者の苦悩

- 豚 2 頭を出荷するため、行政が指導する「豚の血液検査」を受けた。結果は「0.765 Bq/kg 検出」！ (国が認める、豚肉の安全基準は「100Bq/kg」.)
- 出荷を認める (豚を屠殺する) と、豚肉の放射能検査を実施・公表することになるが、「もし、豚肉にも放射能が検出され、世間で騒がれるようなことになっては困る！」という判断で、今しばらくの『飼い直し』を余儀なくされた...とのこと。「安全 (事故の終息) 宣言」のみを要求する国に忖度して、「ことなかれ主義」の地方行政から、事実上の「出荷ストップ」がかかったのである。
- 「双葉地方水道企業団」が発売を開始した「ふくしま木戸川の水」もまた、「事故終息宣言」を PR するための忖度なのであろう。

### ★ 森松明希子さんの「国連報告会」(10/27 開催) に参加して

- ふるさとを後にして、日本各地に「自力避難」 (注: 国が実施してきた避難政策を見れば、決して...「自主避難」=自己責任=サマジョーロ=わがままな人々...ではない!) している人々は、「ふるさとを棄てた」という「自責の念」が付きまとうという。しかし、ここ南相馬 (ふるさと) に戻って暮らす人々は、誰一人としてそれを責めたりはしない。お互いの事情を十二分に理解して、暖かく見守っている。
- しかし、福島を離れた地に住み、「福島には住めない!」「福島産は食べられない!」と声高に語られることに対しては、少なからず抵抗がある。帰還を強要するかのような国策と、(避難し続けることをバックアップする) 一般市民の支援活動がごく一部に限られる中で、しかも「福島に住むな!」という権利は誰にもない。
- 大切なことは、「移住を決断した人々」と「帰還を決断した人々」が手を携えることである。今回の「国連報告会」のような企画は、是非とも被災地でこそ開催していただきたいと思う。「避難している人々」と「帰還した人々」は、どちらも昔ながらの故郷の友人なのだから...

## ～自己紹介と X'mas カードキャンペーンの進捗状況～

(インターン生 高田 浩気)

### 《はじめまして！》

はじめまして、今年度インターン生として活動しています、大学4年生の高田浩気（ただこうき）です。2018年9月末頃まで、中米“ニカラグア”と“コスタリカ”に留学していたため、インターンの開始時期が大変遅くなってしまいました…。

11月に入り、X'mas カードキャンペーンも大変な時期に差し掛かってきました。今一度、気持ちを入れ直し、活動に取り組んでいきます。

### 《ワールド・コラボ・フェスタ 11/10(土)～11(日)》

さて、先日オアシス 21 で開催されましたワールド・コラボ・フェスタで、当初は10日のみの予定でブース出展を申し込んでいたのですが、今年は他団体の協力を得ることができ、11日にも X'mas カードキャンペーンを行うことができました。

幸いにも天気は快晴で、活動日和となり、たくさんの方々が参加してくださいました。ブーステントにぶら下げられた X'mas カードを見た時は、とても嬉しくなりました！ 今年のワールド・コラボ・フェスタ合計で 92 枚でした。

ワールド・コラボ・フェスタ以外にも毎年協力していただいている教会関係者の方々や、学童クラブの子ども達にもカード作りのイベントを実施していただいたり、企画したりしてきました。参加者の方々が楽しく夢中になって書いている姿が目につかぶ、そんな X'mas カードばかりでした！

参加・協力してくださった方々、誠にありがとうございました。



### 《ウクライナ便発送準備 11/21(水)～11/28(水)》



＜事務所で作業をする高田さん  
(中央の男性)＞

11月19日にウクライナ用の X'mas カードを締め切りました。そして、11月21日からウクライナ便の発送準備を開始しました！本当に数多くの X'mas カードが事務所に届きました！

初めてあれほど大量の X'mas カードを見て、とても驚いたと同時に感動を覚えました！ 事務所では X'mas カードと折り紙を封筒に入れる作業をしています。大変な作業ではありますが、皆さん

の心がこもった X'mas カードを見ながら発送準備を行っている最中に、“心を元気にする何か”を感じました。このような活動ができて、とても光栄に思います。



福島原発事故から7年8カ月が過ぎた。事故後全ての原発が停止した時期があったのは幻だったかのように、国内では今、9基もの原発が稼働している。それでも全消費電力の1%程度に過ぎない。福島原発事故後に急速な勢いで成長した、太陽光や風力・小水力等の自然エネルギーは7%、原発の7倍である。太陽光発電が消費量の80%も占める九州では、電力過剰によるブラックアウトを避けるためと称して、九州電力が原発を稼働させながら太陽光発電の受け入れを停止する、という愚策をとった。これを本末転倒と言わずして何というか。

## 大阪万博の夢

最近、2025年の大阪万博誘致が決まり、政治家もマスコミもはしゃいでいる。だが思い出すが良い。かつての大阪万博の年、1970年は日本で初めて商業用原発が稼働し、若狭湾から送られてきた美浜1号（加圧水型）と敦賀1号（沸騰水型）からの電気が万博会場に電気を灯した年だった。政府もマスコミも大はしゃぎ、まさに「原発は明るい未来のエネルギー」だった。しかし、心ある人々はそれが大きな問題を抱えていることを知っていた。事故と放射性廃棄物の問題だ。だが多くの日本人は、広島・長崎の被曝者でさえも「核兵器はダメだが平和利用は未来のエネルギー」と期待した。放射性廃棄物はいずれ何とかなる、と原子力村の専門家たちも政治家も浮足立った。中には廃棄物はロケットで太陽に打ち込めば良い、等と真顔で言う専門家もいた。核燃料は5重の壁で遮られており、万一事故が起きても放射能は外に出ない、と電力会社は豪語した。

あれから48年経った今、多くの日本人は原発の抱える問題が未だに解決の糸口さえ見えない事を知っている。「いずれ何とか」はもう通用しない。夢と消えた原発の未来、それに代わって次の大阪万博の夢は「カジノ誘致」だという。この国の劣化ぶりには目を見張るものがある。

## 「ベースロード電源」の嘘

これまでに国内で建設された商業用原発は全部で57基（5050万Kw）だが、23基（1686万Kw：33%）は既に廃炉が決まっている。残り34基のうち5基（柏崎刈羽5,6号、高浜1,2

号、東海第二）は原子力規制委員会の検査には合格したが、いずれも地元自治体の合意は容易ではない。最後に残った浜岡（3~5）、志賀（1,2）など20基（1900万Kw）は、安全審査にもかけてもらっていない。にも拘らず政府は相変わらず原発を「ベースロード電源」と呼び、全電源の20%程度を原発で賄う、と言う。何故か。経団連に代表される原子力産業界がその背後にあるからだ。原発はコストが高く割に合わないことを、電力会社もそろそろ正直に主張すべきではないか。

## 身の丈に合った経済を

大阪万博に見られるように、長い目で見ればこの国の経済は既に衰退期に入っている。少子高齢化による人口減少と労働力の不足を外国人労働者で埋めよう、という政策をこり押ししても、かつてのような経済成長は戻らない。原発とともに、この国の経済の発展は終焉を迎えたのだ。種子法や漁業権を廃止し、農業や漁業を民営化・大規模化しても、経済の高度成長は戻らない。

2017年12月の国連総会は、2019年から2028年までを「家族農業の10年」とすることを採択した。これまでの大規模農業では、世界の貧困や飢餓を撲滅できない事が分かったからだ。これは、国連が取り組む2030年までの持続可能な開発目標(SDGs)の一環でもある。多様性こそが持続可能な未来につながる。エネルギーもその他の産業も、世界は身の丈に合った社会と経済の時代に入ったことを自覚しなければならない。(2018年11月28日 河田)

## 測定隊に参加して



＜再生を待つ農地と汚染土置き場＞

(三浦 匡史)

私は今回はじめて、埼玉から「第16期南相馬放射線量測定プロジェクト」に参加させていただきます。

このような活動が2011年以降ずっと続けられているということは、同じ埼玉で市民活動を一緒にしている仲間から聞いてはいましたが、実際に参加してみて、一部報道でしか伝わってこない現地の様子を自分の目で見て、活動の持つ意味や被災地の復興の道りを考える良い機会となりました。

2018年10月13日午前、とどけ鳥事務所に集合して測定エリアの割り当てとグループ分け、測定方法の説明を受けた後、午後3時まで担当する測定ポイントを巡り、放射線量を測定しました。ペアを組んだ方が第1回から欠かさず参加されている方で、初心者私でも安心して測定を進めることができました。

私が担当したエリアは、南相馬市西部（内陸部）の山間丘陵部にあたり、南相馬市の中でも比較的線量が高いエリアのようでした。特に、除染が困難な山林や、復旧作業にあたるダンプが往来する幹線道路沿いに高い傾向が見られました。しかし、全体的には想像していたよりも線量は低く抑えられている印象でした。

また、測定隊の活動終了後、南相馬信田沢搾油所を見学させていただきました。ここは一般社団法人南相馬農地再生協議会が運営する菜種油の搾油所で、放射能汚染で一旦は破壊された地域の再建を目指し、農地の再生活用と持続可能で自立的な地域経済の確立を目指すプロジェクトの拠点となっているそうです。地域の未来と暮らしを描く前提として、放射能汚染に関する正確な情報は欠かせません。市民が自主的に科学的データを積み上げる作業はとても重要で、地域の未来と暮らしを市民自らの力で描き出していこうという取り組みは尊いと感じました。

このプロジェクトを継続的に推進しているみなさんに心より敬意を表するとともに、参加させていただき貴重な機会を与えていただいたことに、あらためて感謝申し上げます。

## 測定隊に参加して

(桑田 仁)

2018年10月13～14日に開催された、第16期測定隊に参加いたしました。おかげさまでさまざまなことを知ることができました。

まず、放射線量の測定ボランティアを継続的に行っている組織（チェルノブイリ救援・中部、放射能測定センター・南相馬）の存在を、恥ずかしながら初めて知りました。そして南相馬やその周辺地域で見かける線量マップが、ボランティアベースで作成されていることを知りました。あらためて、活動に頭が下がる思いです。線量の測定に関しては、これまでのノウハウが生かされた、とても分かりやすい説明のおかげで、特に困難なく参加することができました。

また、星野さんの案内のおかげで、南相馬を含む、より広域における原発被災区域における制限の現状を知ることができました。国道6号沿いの双葉町近辺では、アコーディオンフェンスで敷地毎に閉鎖され、立入りは禁止されている一方、浪江町請戸港からは原発が目視できるにもかかわらず、線量は低いため立ち入ることができます。こういった物理的な環境の違いに加え、一時帰宅を柔軟に運用してきた自治体では住民の帰還が進むといった行政の運用、また地域ごとの住民の気質の違いなども合わさり、現在の状況が形成されていることが良く理解できました。

もう一つ大変興味深かったことは、小高においてさまざまな文化的な活動が現在進行形で生まれていて、お世話になった双葉屋旅館がそのハブとなっていることです。そしてその求心力の源は、経営者ご夫妻が持つ、他者を受け入れてつなぐ力によるところが大きいと感じました。

一方、農地の汚染土を除却し、新しく山砂を充填する作業が続けられていることについては、そのために近隣の山が切り崩され、景観が変容している箇所が見受けられました。今後の地域づくりを見据え、美しい風景を維

持しながら客土を行う配慮が必要ではないかと考えます。最後にあらためてお礼を述べさせていただきます。大変お世話になりました。ありがとうございました。

## 測定隊に参加して (今井田 正一)

愛知県一宮市から初めて参加させて戴きました。一宮市は名古屋の北の方角、岐阜のすぐ南です。私は、2011年 東日本大震災の発災以降、震災により愛知県に避難されてこられた方々への支援を、愛知県被災者支援センターのボランティアとして行ってきました。私の住む一宮市にも、いわき市・福島市などから来られた7世帯の方が今もおられます。

今回の測定参加は前半の2日間のみ、不安の中での参加でした。地名も方向も分からない中、地元を知り尽くしたベテランの皆さんのおかげで何とか測定のお手伝いできたことを感謝します。特に移動する車の中でお聞きした地元の歴史・文化・事故前の生活・今の思いなど、訪ねないと知りえないことがとても多くありました。

2日目、浪江町の街並みがなくなり山中に入った途端、線量計のアラームが鳴りっぱなしになったことには驚きました。概ね  $0.35 \mu\text{Sv/h}$  で鳴動する設定とのこと。私が測定に入った場所では、町に近い街道(国道)沿いで  $1\sim 2 \mu\text{Sv/h}$  程、少し奥に入ったり脇道に入ると  $3\sim 4 \mu\text{Sv/h}$  程の値でした。ちなみに、この津島街道は岐阜県郡上市から高山市に抜ける「せせらぎ街道」に似た街道で、もう少ししたら紅葉が綺麗だろうなと思って見えました。ただ、人の手が入っていない荒れた木々が連なり、とても悲しく思えたことを今も覚えています。ごく僅かな時間でしたが、地元の皆さんと接したことと、ナマで見る景色のほか五感で感じる圧倒的な臨場感で、新聞、テレビからは知ることができない「何か」を得たようにも思います。



また、チェルノブイリ救援・中部さんの事実を知るための継続的な活動、そ

してその事実を元に人の生業を見据えたあらたな町づくりへ挑戦している皆さんの活動を見て、とても感銘・敬服しました。そして測定の準備に大変だったろう神野さんの笑顔を最後に拝見したとき、「参加して良かった」とあらためて思いました。よろしければ、桜の咲くころには再びお世話になりたいと思います。今回はどうもありがとうございました。

## 放射線測定に参加して

(カリタス南相馬 武田俊一)

東日本大震災発災後の4月から、岩手県宮古市を皮切りにボランティアを続けています。昨年2月に初めて南相馬市を訪れ、以来この地でソフト・ハードを含めたボランティア活動をしています。ソフトの面では、平日(月曜日から金曜日)、幼稚園の見守り活動をしています。仕事をかかえている保護者のために、午後5時まで園児を幼稚園が預りするためです。昨年初めて、見守りを担当するに当たり、幼稚園の職員(先生)から、外遊びは30分以上はNGと言われました。その時に放射線のことを身近に感じました。ここの幼稚園の砂場は屋内に設けてあり、それは除染のためグラウンドの上を除去したことによるものです。幼稚園の敷地内に、県(?)が設置した放射線線量器があります。毎日見ますが、 $0.075\sim 0.09 \mu\text{Sv/h}$  の範囲内を示しています。

ハード面では、週末(土曜日・日曜日)野外活動に行きます。草刈り、樹木・竹林の伐木が主です。それも除染作業が終了場所での作業です。10月13~14日、20~21日延べ4日、放射線測定に初めて参加しました。測定作業そのものは難しいものではないのですが、地理に不案内のため、測定ポイントにたどり着くまでが大変苦労しました。測定を通じて感じたことは、線量の高い地域と低い地域の差が大きいことです。除染が終了所では、国の基準値  $0.23 \mu\text{Sv/h}$  を上回る箇所はほとんどありませんが、除染作業が進まない(国が行わない)地区では、私が担当した地点の最高値は  $2.8 \mu\text{Sv/h}$  でした。放射線測定は、出口の見えないトンネルのようです。何年、何十年かかるかも知れません。しかし、続けていくことが後世のためと思います。

## 第16期(第32次・33次)空間線量率測定結果

(池田 光司)

10月に、16回目の空間線量率(空間の放射能の強さ)の測定が、4日間かけて(2回に分けて2日間ずつ)行われました。今回の16期も、今春行われた15期に引き続き、南相馬市・浪江町・富岡町を同時に測定して、「3自治体統合マップ」を作製しました。チェル救のホームページにも近々掲載される予定ですので、ぜひご覧ください。

(<http://www.chernobyl-chubu-jp.org/sokutei-map.html>)

今回の測定結果からは、地域ごとにバラツキはあるものの「全体としては、ここ1年物理的半減期に沿って空間線量率が下がった」と言えます。1年前と比べた空間線量率の割合は、放射性セシウムの物理的半減期から計算すると91%ですが、実際、3自治体全体の測定結果を平均すると90%で、2つの値はほぼ一致します。ポーシェ166号で「今春の15期は昨秋の14期に比べて空間線量率が下がらなかった」と報告しましたが、今春15期から今秋16期にかけて空間線量率が下がったので、2017年(昨春13期と昨秋14期の平均)に比べて、2018年(今春15期と今秋16期の平均)が約10%下がったという結果になりました。空間線量率は、秋～春にかけて下がりやすく、春～秋にかけて下がりやすい傾向を持ちながら、物理的半減期に沿って下がっていると言えます。なお、福島第一原発事故当初は、半減期2年のセシウム134の放射能が70%で、半減期30年のセシウム137の放射能が30%でしたが、事故から7年半経った現在では、その比率が逆転してセシウム134が18%、セシウム137が82%となっています。半減期30年のセシウム137が大半となってきたため、物理的半減期による低下の割合は減ってきています。

地域ごとのここ1年の空間線量率の変化を、表にまとめました。ここ1年空間線量率の変化(低下)が小さかったのは、南相馬市鹿島区山間地域、原町区海岸地域、小高区海岸地域、浪江町国道6号以東の海岸地域です。逆に、変化(低下)が大きかったのは、小高区山間地域、浪江町常磐線以西の内陸地域です。空間線量率が低くなってきている海岸地域では空間線量率が下がりやすく、空間線量率がまだ高い山間地域では空間線量率が下がりやすい傾向にあると言えます。なお、各地域の測定結果の詳細は、報告書にしてチェル救のホームページに近々掲載する予定です。マップと合わせてご覧ください。

海岸地域の空間線量率が、自然放射線によ

る空間線量率に近づきつつありますが、まだ、自然放射線のみになったわけではありません。また、山間部では依然空間線量率の高い地域があります。資金的な苦しさはありますが、今後も測定を続けていく必要があると考えます。ぜひ、みなさまのご協力をお願いします。なお、今回の測定は、前回に引き続きLUSHの助成を受けて可能となりました。ご支援に感謝します。

			1m平均空間線量率[ $\mu$ Sv/h]		1年の 変化率
			2017年	2018年	
南相馬市	鹿島	海岸	0.135	0.124	92%
		中央	0.156	0.147	94%
		山間	0.232	0.226	97%
	原町	海岸	0.125	0.121	97%
		中央	0.178	0.161	90%
		山間	0.328	0.298	91%
	小高	海岸	0.137	0.134	98%
		中央	0.214	0.196	92%
		山間	0.377	0.319	85%
浪江町	国道6号以東		0.152	0.143	95%
	国道6号～常磐線		0.229	0.198	87%
	常磐線～常磐道		0.563	0.482	86%
	常磐道～大柿ダム		1.893	1.568	83%
	大柿ダム～下津島		2.303	1.971	86%
	下津島以西		1.097	0.946	86%
	富岡町		0.599	0.535	89%

\* 物理的半減期による1年の変化率

91%

## カトリック名古屋教区「正義と平和委員会学習会」を開催して

(上田 千津子)

11月17日(土)名古屋市のカトリック名古屋教区センターにて、NPO 法人チェルノブイリ救援・中部理事の河田昌東さんをお迎えして『福島原発事故の今とこれから』と題し学習会が行われました。この催しはもともとカトリック名古屋の正義と平和委員会の主催でしたが NGO センターの「N たま生も参加できる催しに」ということでチェルノブイリ救援・中部との共催になりました。参加者は20名ほどでしたが、N たま生の参加もあり中身の濃い2時間を過ごしました。

学習会は PDF を使って進められました。最近、トリチウムを海に流す話などが出ていますが、水とほとんど同じ性質で体内に入ると遺伝子レベルまで傷つけてしまうこと。現にカナダあたりでは被害の報告があることを話されました。また、子どもの甲状腺がんの多発に対する分析と反対の意見を述べる

## 「シャチホコ映画祭」を開催して

「とりあえずやってみようー!!」的な勢いで「シャチホコ映画祭 2018」今年11月10日に名古屋駅で開催することができました。上映作品は『原発の町を追われて 3 双葉町 ある牛飼いの記録』(堀切さとみ監督)、『インド日記～ガジュマルの木の女たち』(早川由美子監督)、『映像とトークで伝える 多摩川ねこ物語』(写真家小西修)、『ヒューマンエラー 安全を信じていた。しかし…』(河野洋監督)

この7年間、私が福島に通い続け様々な活動をしている方々との出会い、福島の人々に思いを馳せ、地元名古屋で映画祭を開催したい。作り手側と来場者の距離が近い空間を作りたい。そこで生まれる交流、そんな手作り感満載の映画祭。名古屋駅からすぐの多目的スペースを経営している古い友人に相談、即オッケーをもらう。やった!「とりあえずやってみようー!!」がここから始まった。SNS 告知、チラシ配布部隊結成、新聞社2社に載せていただくことができた。当日なんと東北、関東、そして関西からも足を運んでくれた来場者の方々に驚く。各作

立場の人の姿勢。チェルノブイリの原発の現在の様子やジトミルでの「菜の花プロジェクト」の経緯。それに続いて福島第1原発の爆発事故の初めから現在に至るまで。南相馬市における放射線量率の測定とその対比も PDF 使用により分かりやすく解説がありました。また、放射能測定センターでの農作物や土壌の放射線量の比較の説明。そしてセシウムが土に吸着し溶けなくなるために地表付近の農作物には吸い上げられないことも話されました。

最後に会場の皆さんから、今後私たちが電力に関してできることについての質問がありました。個人レベルでは再生可能エネルギーなどの電気を使うことなど限界がありますが、火力発電なども CO<sub>2</sub>の問題があるので政府、企業なども併せて方向転換が必要だということでした。

(井上めぐみ)



品上映後の監督とゲストのトーク。福島県双葉町から埼玉県に避難した鶴沼久恵さんが、「名古屋に着いて高層ビルを眺めながらここが東日本大震災のような災害にあわなくて本当に良かった」その言葉に胸が締め付けられた。トークではきれいごとだけでない避難者の現実を伝えていただくことができた。チェル救の河田さんの放射線講座、新潟大学天谷准教授の「ヒューマンエラー」撮影秘話・・・など、盛り沢山の内容で、あっという間の6時間。

その後の懇親会でも人と人とのつながりによって新たな仲間ができていく、素敵な時間だった。開催に向けて力を貸して下さった全ての方々に、心より感謝を申し上げたい。

## 2018年度上半期 活動計算書

特定非営利活動法人チェルノブイリ救援中部

(単位：円)

(特定非営利活動に係る事業会計)

自 2018年 4月 1日 至 2018年 9月30日

科目		金額	
<b>【経常収益】</b>			
1. 受取会費	正会員受取会費	117,000	
	賛助会員受取会費	225,000	342,000
2. 受取寄付金	ミルク	55,000	
	フィルガ け支援(医療機関)	11,600	
	フィルガ け支援(被災者団体)	24,400	
	福島原発被災支援	1,052,500	
	一般寄付	3,242,601	4,386,101
3. 受取助成金	ラッシュュジャパン	2,506,000	
	名古屋NGOセンター	150,000	2,656,000
4. 事業収益	福島支援事業	503,280	
	啓発事業	9,000	512,280
5. その他の収益	受取利息	11	
	雑収益	6,000	6,011
経常収益 計			7,902,392
<b>【経常費用】</b>			
1. 事業費			
(1) 人件費	給料手当・日当	312,000	312,000
(2) その他経費	業務委託費	188,357	
	支援金	1,500,000	
	印刷製本費	502,480	
	旅費交通費	1,718,301	
	通信費	49,506	
	荷造運搬	95,848	
	賃借料	8,000	
	仕入	63,217	
	諸会費	30,000	
	支払手数料	16,515	
	雑費	2,113	4,174,337
事業費 計			4,486,337
2. 管理費			
(1) 人件費	給料手当	1,132,945	1,132,945
(2) その他経費	法定福利費	5,989	
	通信費	81,980	
	荷造運賃	5,940	
	水道光熱費	52,422	
	旅費交通費	400	
	広告宣伝費	2,000	
	消耗品費	91,868	
	印刷製本費	18,502	
	地代家賃	388,800	
	保険料	10,880	
	租税公課	600	
	諸会費	43,000	
	支払手数料	25,261	
	雑費	5,400	733,042
管理費 計			1,865,987
経常費用 計			6,352,324
当期正味財産増減額			1,550,068
前期繰越正味財産額			1,186,915
次期繰越正味財産額			2,736,983

※その他の事業は実施していません。

## 2018年度上半期 財務諸表の注記

### 1. 重要な会計方針

計算書類の作成は、NPO法人会計基準(2010年7月20日 2011年11月20日一部改正 NPO法人会計基準協議会)による。

- (1) 固定資産の減価償却の方法  
有形固定資産は、法人税法の規定に基づいて定率法で償却をする。
- (2) 消費税等の会計処理  
消費税等の会計処理は、税込経理方式による。

### 2. 事業費の内訳

事業費の区分は以下の通りです。

(単位：円)

科目	医療 機関 支援 事業	粉 ミル ク 支 援 事 業	被 災 者 団 体 支 援 事 業	ク リ ス マ ス カ ー ド 事 業	業 務 委 託 事 業	通 信 誌 発 行 事 業	イ ベ ン ト 関 連 事 業	派 遣 事 業	福 島 原 発 被 災 支 援 事 業	啓 発 事 業
<b>【経常収益】</b>										
受取寄付金	11,600	55,000	24,400				150,000		1,052,500	
受取助成金									2,506,000	9,000
事業収益									503,280	
その他の収益										
経常収益計	11,600	55,000	24,400	0	0	0	150,000	0	4,061,780	9,000
<b>【事業費】</b>										
(1) 人件費										
給料手当・日当									312,000	
人件費計	0	0	0	0	0	0	0	0	312,000	0
(2) その他経費										
業務委託費					188,357					
支援金	300,000	480,000	720,000						384,480	
印刷製本費						118,000				
会議費										
諸謝金										
旅費交通費							1,620		1,716,681	
通信費						48,331			1,175	
荷造運搬費						94,544			1,304	
消耗品費										
地代家賃										
水道光熱費										
貸借料							8,000			
仕入									63,217	
新聞図書費										
保険料										
諸会費									30,000	
支払手数料	1,400	3,535	4,616						6,964	
雑費							2,113			
為替差損										
その他経費計	301,400	483,535	724,616	0	188,357	260,875	11,733	0	2,203,821	0
事業費計	301,400	483,535	724,616	0	188,357	260,875	11,733	0	2,515,821	0
経常収益－事業費	△ 289,800	△ 428,535	△ 700,216	0	△ 188,357	△ 260,875	138,267	0	1,545,959	9,000

2018年度上半期（2018年4月1日～同年9月30日）の会計報告を監査した結果、異常なく正当に処理されていることを証明します。

2018年 11月 14日 監査人 神野美知江

◆2018年度は、前年度の繰越財産額が約119万円で始まりました。2018年度の運営資金状況を鑑み、ホステージ基金とも相談をして、当初予算から例年よりも支援金や業務委託費を減額しました(約100万円程度)。ホステージ基金へは皆様からいただきました8月までの寄付金と会員費のおかげ様で、両方の費用を無事に送ることができました。

◆放射線量測定プロジェクトに関しましては、春、秋ともラッシュジャパン様から測定プロジェクトの全額の助成をいただき、無事に事業を遂行できました。

◆上半期を終えた段階で、下半期の支出金額を試算したところ、下半期に予定している事業の全てを実施することは困難と予想されたため、派遣事業の中止と、手紙プロジェクトを東海地域NGO活動助成金事務局（名古屋NGOセンター・真如苑様共催）からいただいた助成金の範囲内で遂行する予定としています。

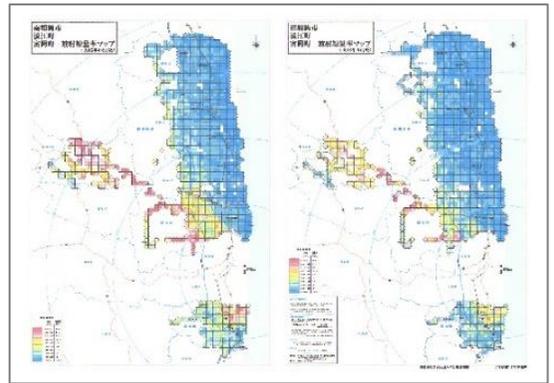
◆今年度の当団体の運営を無事に遂行しきるとともに、今後も当団体を継続的に運営して、ウクライナと福島を支援していきたいと願っています。皆さまからいただきました当団体への支援金は大切に使用させていただきますので、今後もご支援をいただけますと嬉しいです。どうぞよろしくお願い申し上げます。（会計係 大森 融(臨時担当)）

## 事務局便り

今年は、カードキャンペーンの締切りを早めたので、集まり具合はどうかと懸念したが、思いのほかたくさんのカードが届けられた。ウクライナ・日本どちらのカードも、相変わらず力作揃いで、カード発送作業は楽しい。南相馬・小高でもたくさんの方のご協力で、カード作りが行われたという。事務所からは、ウクライナへすでに 1,932 通のカードを送り、次は 1,222 通のカードを南相馬へ送る。これが終われば、はや師走。時はあまりにも早く過ぎていく。—青春・朱夏・白秋・玄冬、人生もまたそのように過ぎていく—か。さて、今年 1 年、チェル救は多くの方々に支えられた。皆さまに心から感謝申し上げます。(山盛)

## 「2018 年秋の線量率マップ」完成！！

今回も、計測した人は、地元および全国からのボランティア、救援・中部のスタッフ、放射能測定センター南相馬のスタッフ、のべ 96 名で、およそ 1,600 地点の測定を行いました。測定に協力いただいた各地の皆さま、資金難の折、マップを完成させるために資金援助いただいた LUSH Japan さま、ありがとうございました！ ご協力いただいた皆様には、本号と合わせて郵送する予定です。お手元に届いてますか？他に興味をお持ちの方は、救援・中部事務局にご連絡ください。もちろん南相馬(とどけ鳥)でも良いですよ。そして、次回もぜひご協力くださいね。(美)



## 編集後記

- ☆運営委員会で事務局に行くと、遂に完成した油菜ちゃんのごまドレ発見！消費税込で 600 円ですよ。そのうち人気に火がついて品薄状態になる前に手に入れておいてくださいね。(佳)
- ☆平成時代の最後を飾る「エルミタージュ美術館」で絵画の鑑賞。今まで対面していない絵画を楽しめた。最近、東北新幹線に乗ると途中下車して上野をパトロールしたくなる…ん？(美)
- ☆11 月 6 日に行われた米中間選挙において、共和党が「上院で勝利／下院で敗北」し、ねじれ現象が発生した。「トランプ大統領は、これから難しい政局運営を強いられる」…というのが、マスメディア（&それを信じる人々）の一致した見解のようである。しかし、トランプ大統領は即座に「歴史的な勝利だ！ 皆さんありがとう！」…と勝利宣言し、翌日には司法長官の人事入替を発表した。上院における共和党の勝利とは、「司法の人事権が善人(トランプ政権)側の手に渡り、世界を支配してきた犯罪者集団をパーシ（大量逮捕）して、世界の劇的変化(パラダイムシフト)を実現できる体制が整った」…ということを意味している。この変化を象徴するかのごとく、この 1 年間に「ヒラリー・クリントン (ネオナチ)」の後ろ盾であった「デイヴィッド・ロックフェラー (3/20)」「バーバラ・ブッシュ (4/17)」「ジョン・マケイン (8/25)」、そして「パパ・ブッシュ (11/30)」が、相次いでこの世から姿を消した。(J)

〒 456-0022 名古屋市熱田区波寄町 20-14

印刷 「**エープリント**」

TEL・FAX (052) 871-9473